



# 山極壽一

総合地球環境学研究所 所長  
理学博士

「京大総長、ゴリラから生き方を学ぶ」「ゴリラからの警告」などの著者でも知られる山極壽一氏。アフリカで野生の「ゴリラと生活をともにする中、多くを学んだという。

山極氏は京都大学の総長時代、「おもろチャレンジ」を創設した。京大OJから出資してもらい、一から自分で企画を立て、学問ではないことも含めて外国に行つて何かを体験してくるということにお金を出すもの。自分で好奇心を燃やし、やりたいと思つたことを誰かが支援してくれる。それが「おもろい」ということだと。そつした数々の「おもろい」ことの考案と実践により、京大生は企業に就職すると「困つた時の京大生頼み」の合言葉の下、解決に力を発揮している。人とは違つたことを考えるということを訓練として行つてきたからこそ人間力であろう。

山極氏は現在は総合地球環境学研究所の所長として人類のあるべき姿を追求し、大局観に基づいたさまざまな提言をしておられる。それは人間力をも含めた、人類としての在るべき姿、生き方への大きな示唆となつて我々の心に響いてくる。

# 人間の持つていている力を回復させ、レジリエントな未来を構築する

科学技術の急速な進歩により、我々人類は利便性を手にした。しかしその一方で人間としての大切なものを失つてきたのではなからうか。山極壽一氏に、人類のあるべき姿、進むべき方向性を伺う。

## 地球環境問題の根幹は人間の文化の問題

**伊藤** 現在、山極先生は「総合地球環境学研究所」の所長を務めておられます。初めに、「総合地球環境学研究所」の成り立ちや使命、活動についてお話をいただけますでしょうか。

**山極** 「総合地球環境学研究所」は通称「地球研」といいますが、「環境」という文字が入っているので自然科学の研究所かと思われるかもしれませんが、しかしこれは、文部科学省の「人間文化研究機構」という、文化を研究する人文学中心の研究機構の一つです。ほかには「国文学研究資料館」「国立国語研究所」「国立歴史民俗博物館」「国立民族学博物館」「国際日本文化研究センター」と全部で6つあり、純粋に人文学の研究機構です。地球研はこの6つの研究所の中で一番新しく、

2001年に設立されました。初代の所長は日高敏隆さんという、昆虫学を中心に研究され、動物行動学を日本に紹介して初代会長を務められた自然科学者です。彼は「地球環境問題の根幹は、広い意味での人間の文化の問題である」と宣言しました。環境ですから気候や水質、地質など、自然科学のさまざまなエビデンスが必要です。そういうものを土台にしながら、どうやって人間の暮らしに使っていくか。それはまさに文化の問題だと言ったわけです。ですから初めから「文理融合」、人文学と自然系、もちろん社会学なども入った学際的な研究が基本なのです。

地球研ではこれまで39ほどのプロジェクトを手掛けてきました。一つにつき5年の期間で、予算が当初は一つのプロジェクトに1億円ぐらい、今は5000万円ぐらいしか付きませんが、一つのプロジェクトで80人から100人を超える分担者や協力者がいて、理系、文系、その他の研究者が

寄り合つて現代の課題を考えていくということをやってきました。そして7、8年前からは超学際で、研究者だけではなく企業や自治体、NGOや一般の市民の方々と一緒に課題を解決しようという「シチズンサイエンス」を試行しています。

**伊藤** お名前のイメージと少し違いますね。  
**山極** 英語表記で「Research Institute for Humanity and Nature」で、環境とらう単語が一つも入っていません。「Humanity」は人間性、「Nature」は自然ですから、「人間と自然というものを研究するところ」だということなのです。

2022年から始まつた第4期の総合テーマが『自然文化複合による現代文明の再構築』です。ちょっと大きく出ました（笑）。文明を再構築するという、その基本にあるのは、文明というとインダス文明、エジプト文明、メソポタミア文明、中国文明といった巨大なものを想像しがちです。しかし現代文明というと、実はITなのです。